

地域と担当区業務

— 国有林野事業の円滑な推進のために —

局・造林課企画係 有井 寿美男

要 旨

担当区業務は、管理収穫・造林事業等広範囲にわたっているが今後の国有林のあるべき立場を踏まえ、担当区業務の内、特に対境関係について再認識し伊那署・伊那里担当区事務所での実例を基に考察した。

はじめに

担当区主任は広大な国有林の管理から収穫事業、造林事業、労務管理と広範囲な業務を遂行し、また営林署の出先機関として国有林野事業への理解・協力を得るためのPR、地元情報の収集等の職務を行ういわば営林署の「触角」であり広報マンである。

そのためには地域の人々の生活に溶けこんで公私にわたる深い付き合いが必要である。

私は伊那署・伊那里担当区で地元である長谷村に特に溶けこんだ深い付き合いを行うことによって営林署の「顔」としての担当区業務に心掛け一定の成果を得たので発表する。

I 長谷村の概要

長谷村は天竜川の支流、三峰川の上流に位置し塩見岳から仙丈岳を経て鋸岳までの南アルプス北部を有する。村の面積は32,000haあるが耕地面積260ha、人口2,600人と過疎の山岳村である。

国有林はすべて南アルプス山系にあり21,000haで村面積の約70%を有している。

長谷村は過疎防止策として村づくりに取組み国有林を活用し観光立村を目指しつつあり国有林との共存がなければ発展しない村である。

II 実行内容

村長へ着任の挨拶をした時、開口一番「美和ダムを見たか、あの流木は国有林から流れ出たものだ」といわれた。

(当時は昭和57年の大型台風で流木が美和ダムを一面に埋めていた。)

村長の言葉の中になにか不満めいたものがうかがえたのでこれは村との意思疎通が十分ではないなあ、なんとかしなければと思い、役場へはなにかにつけて足を運ぶようにした。

そんな中で台風で廃道になっている塩見岳登山道を、新しい登山道にできないかと話が持ち上がった。

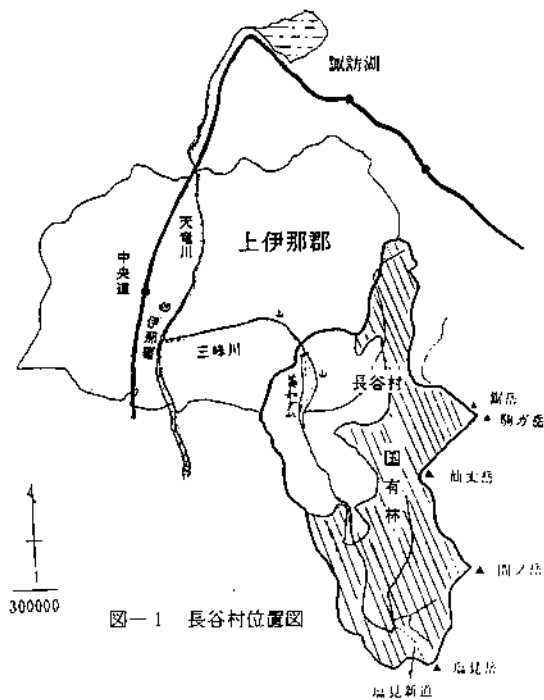
国有林経営のためにもこれに協力することがよいと判断し担当区の総力をあげて取組み、各機関との調整も済ませ総員100名を掛け昭和60年6月に延長6,900mの新登山道が完成した。

作業に携った人達は役場の職員、森林組合の作業員、山の愛好家達であった。

新道の開通により8時間要した登山が5時間で登れるようになった。

村と一体となったこの新道開設を通して、地域との関係が大変円滑になり村の内容も知ることができ、また、担当区も理解してもらえるチャンスであった。

そんな中で「村づくり委員会」などの各委員会にも委員として参加できるようになった。参加した



図一 長谷村位置図

表一 委員会内容表

委員会名	構成要員	内 容
村づくり委員会 (環境づくり部会)	村長の親属者 (若い人中心)	45名 ○ 行動できる組織 ○ 第1部会 — 人づくり部会 ○ 第2部会 — 環境づくり部会 ○ 第3部会 — 産業づくり部会 ○ 第2部会 — 花いっぱい運動 ○ クリーン化運動 — 空き地管理
村づくり委員会 広報委員会	村づくり委員内より	11名 ○ 村づくり新聞 〇月1回発行
村がこし委員会	各団体の長 及び村議会議員	50名 ○ 村づくり委員会の調査及び資金調査
よるさと興行委員会 会及び小委員会	各組長、団休役員	100名 10名 ○ 村をあげてのお祭 (S 60. 10. 19) (各組出し物、展示コーナー、花火)
アツモリ草研究会	アツモリ草愛好家	36名 ○ 村づくり環境づくり部会とタイアップ ○ 村の花アツモリ草の栽培の研究 ○ 先例研究会との交流

各委員会は表一のとおりであり、その中で村おこし委員会では特に村議会議員や各委員のみなさんが国有林をあまり見たことがなく、また多くの人が「営林署が木を伐るから災害が起こる」と思っていたので国有林視察を計画し、作業地より上部で崩壊が起きていること、営林署ではこんな作業をしていますと見て理解していただいた。また村の意向を受けて流木防止用の鋼製えん堤の計画ができなしかと営林署へ働き掛けもした。

ふるさと祭りへの参加は営林署としても収入確保と村内外へのPRの一助にもなった。(表一参照)

以上の村の各種委員会はほとんどが夜の活動であり、時には12時、1時にもなった。このような活動を通じ大勢の人を知り、また自分を知ってもらうことができた。

地域住民と色々な話しをする中で国有林や営林署も話題になった。

約70%が国有林である村でさえ国有林の内容や営林署がどんな仕事をしているかよく知らないか、または無関心の人がほとんどである現実に驚かされた。

「営林署は計画的に木を伐り、木を植えていますですがそれだけではありません。林道も造り維持してきます。治山事業でえん堤を造り崩壊を防止し国土の保全をしています。」など説明し理解していただいた。

表一 長谷村ふるさと祭り売上げ表

伊 那 県

品名 年度	木工品等	編 織 材	紙 北 木	サルノコ シカケ	炭 間 石 山 砂	合 計
59	17,800 (100)	11,500 (100)	20,500 (100)	—	—	49,800 (100)
60	61,700 (347)	28,900 (251)	135,700 (662)	8,400 (100)	山 砂 700	235,400 (473)
61	111,500 (626)	31,700 (276)	126,000 (615)	18,300 (112)	炭 間 石 20,600	308,100 (617)

()は%

また村では「こんな意見があるよ」「こんな話しがでているよ」などの情報も容易に収集することができ、担当区主任としてカミシモを着て出向いて聞く情報とはかなり異なるニュアンスであり、対応等たてるうえで大変助かった。

Ⅲ 考 察

以上の経験から担当区主任は、地元 Doppuri につかって地元住民になりきり、地元の集合等に積極的に参加し営林署側の意向は早期に的確に村へ伝え、村の情報は広く、深く、早く、正しく営林署に伝えることにより営林署の「顔」、また「触角」としての担当区業務が十分達成できると思われる。

おわりに
担当区業務は管理、収穫、造林業務等広範囲にわたっているが今後の国有林のあるべき立場を考えると地元とのつながり、いわゆる対境関係がますます重要になると思われる。そのために営林署の触角としての担当区主任の活躍がますます望まれることから、新任主任等の参考になれば幸いである。